

**GROWIN' UP**

Rootage



## **Disc 1**

1. Red Night Harlem
2. Start Line
3. Painkiller
4. and then, Song was Born
5. Revive
6. Same Time
7. Life Edge
8. Red Hair Band
9. Doubt
10. Fortune Door
11. Winter Vision
12. Snow

## **Disc 2**

1. Two Hurts
2. Little Lucy
3. Silent Night
4. Journey
5. Jump
6. Praying
7. All Thumbs
8. With
9. Your Son.
10. Soul Drive Cindy
11. Beautiful Land

# RED NIGHT HARLEM

Take Freeのグラスを手にして、佳境のパーティに踏み入る 愛すべき人はどこにいる  
自らの刺に傷ついて モザイク模様のあなたの心

薄暗い部屋 背中を伝う汗 癒されぬ孤独  
苦く、甘く、切ない メロディ 何を見つめてる  
けだるい夏の夜の夢 スキャンダラスな瞳で 野暮な口は閉じて

褐色の王子に向かって ためらいがちな指先  
ふつつつと沸き起こるパッションを隠し  
欲情の下半身をくねらせ 流れに身を任せる舌  
苦く、甘く、切ない メロディ 心が融け始め

どさくさに紛れ込ませた 誘う指先は  
柔らかな胸元のトップスの上で 跳ねる小人  
韻を踏んだあなたの美しい言葉は 説明の度に原型を崩し、その力を失くしてく  
うなされるほどの熱に効く処方箋を探す ノスタルジアの雨に打たれ

苦く、甘く、切ない メロディ 何を映し出す  
鈍く光る白い稲妻に誰もが息を飲む

# START LINE

ロクでなしサリーは小さく心持ち頷いたうなずいた3時  
しがみつくほどの過去も持ち合わせてる訳じゃない  
僕はどれだけ君を許せるだろう 人はどれだけ他人を受け止められるだろう  
重くのしかかる人生をジャンプするために 対岸の君に今そっとキスをするよ

ヘビーな思い出が頭もたげるけれど  
沈み込んだ君を絶望のクラックから今、救えるなら  
いくつにも寸断された過去を背負い 見えないスタートラインにすくっと立って、サリー  
覚えておいて 僕はいつだって君の味方さ だって君はもうすでに僕の一部だから  
夜ごと訪れる悪夢を消しさるように 明日生きる意味を見つけようとシャウトする  
黙殺された希望を取り戻すため 自分だけのリアリティを掴みたい

ひとはそれぞれ違う宗教を抱えて いつだって、ひとはそれぞれ他人に愛されたい  
知りすぎたことなど みんな、全部、すべて、忘れて 昨日の自分を一瞥、裏切ってゆく  
自分のことしか知らない僕たちは 自分のこと一つ分かりもしないけれど  
臆病な君はまた足をすくめるのか? どこかに置き忘れた勇気を探して

シーリング・ファン見上げ、愛は始まったばかり シネマティカルに心映すCamera  
チャイナタウンの外れにあるその店で落ち合う 曇った窓に誰かがハートを指で描く  
風に踊る二つの木を眺めて、サリー 希望と同じだけの失望を抱えて  
何も知らぬ人が君を責めるだろう 僕たちは迷いながら生きてる

サングラスの下 あどけない瞳 頬にそばかす 尖らせた唇 ナイーブなハート  
あばずれサリー

# PAINKILLER

苦い薬を飲み込み、腹の痛みを抑える  
そんなたいしたことはないさ 自分に向かい言い聞かせる  
あとどのくらい歩けば 君のもとにたどり着ける  
君のもとにさす太陽は僕のより近いのかい？

いつかは神様が救ってくれるだなんて甘えはもう、とうに捨てた  
It's just youth of flower

甘い吐息を残して、あなたからの通信はいつも切れる  
ふたりはととてもあやしい そんな雰囲気を楽しんでは  
遊ぶように働いて、働くように遊んでみたり  
あなたのように街にはうまくとけ込めそうにない

その一つの言葉であなたが近くなり、その一つの言葉であなたが遠くなる

つけっぱなしのテレビが時間を押し流してゆくから  
瞳の奥、隠した姿を見せて そっと教えて  
孤独の絆 スイッチを消して、私だけを見つめて  
遅れがち 時計 針を戻して 誤動作する未来

偶然符合したただそれだけの2つのパズルなのに、僕らは見たいものを見る  
It's just youth of flower

# AND THEN, SONG WAS BORN

いま君に伝えたい 胸に詰まる切ないこの気持ち 何度も足は往復して  
たまたま出会っただけなのに 君がいないなんて想像がつかない  
言葉で伝えられない君のよさを どうやって僕は人に伝えよう  
深く閉ざされた闇の中で 君の匂いを嗅ぎとろうと  
夜の魔法を君が消してしまう前に

じっくりと君を理解するように 何度も繰り返し愛撫して…  
君のすべてが知りたい

間違いを続ける人生 ただひとつ正解があるとするならば  
それは、迷いもなくあなたを選んだこと  
たわいもない言葉で台無しにしてしまうその前に  
魅惑的なフレーズに腰を揺らして 体だけが覚えてる  
慰めのない孤独を隠して  
さよならも まぶしさも あこがれも そこにはある だから今

君と僕の間下げた帳を今取り払って そして歌は生まれた  
僕と君は距離を計りながらそっと話し始めた そして歌は生まれた

雨が嫌いだった 君に会うまでは  
約束の日はいつも雨 晴れていても突然 ぽつぽつ落ちてくる  
もう君を置き去りにはしない  
曇った君の目を 再び輝きで満たしたい

じっくりと君を理解するように 何度も繰り返し愛撫して…  
君のすべてが知りたい  
君と僕の間下げた帳を今取り払って そして歌は生まれた  
僕と君は距離を計りながらそっと話し始めた そして歌は生まれた

そして歌は生まれた

# REVIVE

好きだった歌に心が震えなくなって久しく経ち  
真夜中にうなされることもなく  
新しい日常が訪れることにもう  
何の希望も持てない気がしていた  
錆びた心 腰に重くのしかかる  
飛び立つための軽さが欲しい

明日が見えなくて 傷付き、疲れてた  
あの頃と似た焦りと感傷  
届きそうに見えた夢 近付くと遠くて  
すっと手をかすめて すれ違う頬  
同じことを繰り返した日々が  
僕を小さくまとめてゆく  
君の好きだった僕が 僕を壊してゆく

Black City 駆け抜ける 季節の輝きを知る  
街の灯りは雲を赤く、ぐっと染め上げ  
問題は速度ではなく 問題は重量ではなく  
速さと重さ そして、あなたの悲しみ  
忘れずには生きることも出来ずに  
記憶が君を独りにした

Call & Response あの日、メアリー  
肉体が精神に追いつくよう まるで心が身体を掴むよう  
遠くを睨む度、跳ね返る視線 訳もなくこぼれる涙  
抑えきれない感情 口籠る君  
昨日の経験はフィクションに変わってしまう  
それでも足は明日を示す  
君が君を変える Revive 世界は喜びで溢れて見える

ボイスレコーダーに吹き込んだ 「愛してる」  
理由なんて 溶けてなくなればいい



# SAME TIME

あなたがひとり 泣いていたことも知らず  
おどけた僕はまぬけなピエロ 顔見合わせ  
あなたの目は涙で濡れて ふたりの時は止まり

振り返ればそう 思い当たる節があるはず  
あなたのサインに 愚かな僕は気づきもせず  
あのころ、蚊にかまれたおでこを 手で押さえて、あなたははにかむ  
そっと目を閉じてみれば ふたりはひとつ

噛み合わない会話 かける同じ言葉が あの頃とは違って聞こえる  
隔てられた時間を補うように寄り添う 不安を抱き

黄金の落ち葉 ゆく道を覆いつくす  
朝焼けが照らす 長い陰をまとったまま  
あなたの心にまだ間に合うの？ ふたりはひとつになれる  
同じ時がふたりを包む 頬染め、唇重ね

# LIFE EDGE

血みどろのその手 ちょっと見やっただけですぐに  
そのまま家へ向かう地下鉄に乗り込む  
心の中、つのるわだかまりはやがて膨張し 押さえ付けられなくなる時が訪れる  
希望と絶望の狭間を揺れる 仕掛けのあるサイコロに左右され

他人の人生のダイジェストをテレビで確認して  
コンビニで失敬したコーラ、ゴクゴクと飲み干す  
闇の中、告白は聞く者もなく 悔やむ前に銃口を顔から外せ  
すり替わった座標軸にめまいがする 取り出したタバコに火を点ける  
対向車のハイビーム・ライトに目をやられ  
ノイズ混じりのビデオ映像に映るカメラ目線のアクター  
それが自分だと気づくのにしばらく時間を要した  
太ったマネージャ レンズの向こう、歪む世界  
簡単に張り裂ける心 命がけのEscape

誤解と幻想を重ねた真実に寄り掛かり 解り合えない人生がまたすれ違ってゆく  
夜景と呼ぶには近すぎる喧噪の街は 目の不自由な俺には2重にずれて見えた  
誰にも気づかれず狂いたす歯車 3度鳴っては途絶える呼び出し音

あいつはもう使えないよ 気を病んじまったんだ  
そう囁く声が壁の向こうから聞こえてくる  
静かに始まった裏切りのプレリュード いつの間にか組織は社会と名乗りだす  
割り切れない計算を繰り返し 癒されない大地に雨が降る

手ぶれのフィルムに焼き付けられたお前の顔  
エンドレス・テープから聞き覚えのある声  
吸いかけのタバコをアスファルトに叩き付け スパークする炎を後に  
沈み切らない太陽 ジェット機が屋根をかすめ 耳を澄ませ、心は叫ぶ  
簡単に張り裂ける心 命がけのEscape

わずかに開くドアからのぞく世界は光に満ちて  
黒いコートはためかせて 指を鳴らす それが合図  
貨物に乗り西へ向かう 西へ ただ西へ  
希望と絶望が交錯する 西へ 西へ  
バタフライ舞う

# RED HAIR BAND

急ぎ足の誕生日 祝う人もなく  
心満たすプレゼント 探しに街に出た  
ショーウィンドウに飾られた色とりどり品たちの向こうに  
誰を待つでもなくひとり あなたがそこにいた

はるか昔、別れたあなた 髪をなびかせ、その手を強く振る  
「いつか会える気がしてた」、その後の言葉は  
ぎこちない会話と照れ隠しの笑み  
そのうちまた、会えるよね？ 今日雨降るそうよ  
そっとあなたはピンクの傘を手渡し La la...

うまくいかないことばかり ひとり眩くけど  
それほど若いわけじゃない 何もかもをやり直すには  
あなたは少し寂しそうに、舞台に立つ夢は諦めたのよ  
窓を眺めて独り言のように静かに話す  
今度ドライブに連れて行ってあげるわ どこに行くかは風任せだけど  
打ちひしがれた愛すべき人生のすべて 酸性の涙が苦痛を溶かす

あなたは今も変わらずカチューシャを付けてる その理由を初めて明かした夜  
赤い口紅が残るグラスを手にし 忘れない、「きれいだよ」そう言ってくれたこと  
イルミネーション、光溢れ コラージュする窓越しに映るあなたの横顔にただ見とれていた  
もう今はフリーなの、そう言って あなたは手を強く握る  
麗しのあなたは最後のヒロイン

長いキスの後、急に 思い出し笑い  
看病するあなたにキスをして 風邪をうつした冬

# DOUBT

神が与えてくれる運命はいつも残酷で 時に逃げ出したくなる  
やっと気づいた時にはその多くは遅すぎて 波はもうそこまで来きている  
あなたの愛を確かめる術もすでに失って 何を頼りにすればいい？  
絡み合う二つの手をどうか離さないで 間違いも受け入れる

先走りする感情に追いつけないルール 言葉はやがて意味を変える  
純粋な愛情の感情に友情がもつれ 正常な判断も置き去りにされる  
誰が自分の見方なのか確信することもなく 重たい雲が大地を覆う  
不意に自分の影を見て驚いてみたり 足下もおぼつかず揺れる方角

胸の鼓動を確かめる か弱く奏でるパルス音  
危うく輝く命 夜空にかざしてみる 歪んだ月が微笑む

# FORTUNE DOOR

どんな悲しみも いつか癒えるから  
どうか泣かないで その顔を上げて  
次はいつ目覚める 眠るのが怖かった  
成長を求めるならば、痛みは避けられない

夜よりも深い黒の中、木々が息をしてる  
細い顎で今、その苦痛を噛み砕く

縛られる運命 逃れられない宿命  
少しずつ変わり果てゆく顔を睨みつけ  
近付き過ぎると 見えないものがある  
百も‘嘘’を言えば ‘本当’に変わると言う

何を信じればいい？ こぼれ落ちる涙  
安らぎの方角へ 焦がれ、吠える

心戸惑わす 溢れる君の涙  
見えない未来に怯えている

避けることできぬ戦なら怯むことはない  
君を守れるならば鬼にもなるう  
同じ時を刻む時計 お互いの耳を当て  
強く愛し合う時が終わらぬよう  
悲しみの十字路で立ち尽くす人がいる  
今自らを救う 君を救いたい

何を信じればいい？ こぼれ落ちる涙  
安らぎの方角へ 焦がれ、吠える

人により違うその名を持つ「幸せの扉」  
誰もが気づかぬうちに通り過ぎる

# WINTER VISION

とつぜん降った雪のせいで 辺り一面銀世界  
足を取られた交通は麻痺し この都心には人影もない

すすで汚れた笑みをたたえ 少し頬のこけた大人の表情で  
地に足の着いた人生を愛す、君を不意に思い出した  
掛け違えたボタンにふたり気づかぬまま 人生を紡ぐ、もつれた糸たぐる

眼帯をとって初めて見る風景 それは冬の幻  
白い雪に目をくらませて 舞い散る雪 頬で融けてく

口先だけの約束でひとを 傷つけてきたことにも気づけず  
グラスを満たす涙は苦く 薬にもなれば毒にでもなる

長い一人暮らしで名前もなくしかけた 手段はいつか目的に取って代わる  
漆黒の闇の中、叫ぶその声は跳ね返ることもなく  
鏡代わりの水を満たして 映る顔に波を立てる手

ジオラマの町並みを月が照らす  
静寂のとき 冬の幻

# SNOW

張りつめた空に白い雪が舞う  
凍り付く世界 果てしなく  
あなたへの思い 変わりなく積もる  
雪が舞い散る丘 踏みしめる

情熱の彼方には氷点の虹が出る  
午前2時の奇跡は あなたへと架けて照らす道のり

湧き出る泉 谷底を歩く  
幻の都 ただひとり  
黒い空の下 遠くなる声に  
方角を失い、うずくまる

オアシスは張りつめた氷の中 止まる時間  
声を殺し、耳元で囁く かじかんだ愛の言葉

灰色の瞳 曖昧な記憶 指先が痛む 溢れ出す涙

# TWO HURTS

ひとり、ダンスを踊るのがうまいあなた  
愛し方も知らずに 気のない素振りで  
唇重ねるなら、すぐにバれてしまう  
心に燃える炎が二人を引き寄せて

愛してる

触れるものすべて古くしてしまう僕たちは  
はじめて遇った時のことなど、とうに忘れて  
苦しめずにはいられない運命のふたりなの  
皮肉まじりに口にする 乾いた声で、あなた

孤独を道連れに生きてゆくあなた

違う視線で同じものを見るのが楽しかった  
やがて視線はすれ違い、目を合わせることもなく

愛してる

まるで違う世界を抱えた二人は お互いを触れるたび、惹かれていった  
そして正反対の性格の二人は お互いの違いに、次第にいらだちをつのらせた

いつか悲しみは... Don't cry. I've known this.  
覚悟はできているわ Don't cry.  
It's a little story at South Park Avenue.



# LITTLE LUCY

まだあどけない君 唇、尖らせて  
ポケットに手を突っ込んで、僕を強く睨みつけた  
矯正した歯を見せ笑う ぶかぶかの帽子を目まで覆い  
舌足らずの君はロシア訛りがまだ抜け切らない

人一倍の努力家の君は今日も繰り返す  
自分でたてたメニュー 情熱だけがワタシの支え  
麗しのタンゴのメロディ 赤いドレス踊らせて、吐く息は白く  
Ice Dance 水道が凍る Early Morning, Lucy

ときどき君は独り、伏し目がちに 氷を眺めていたね  
本当はとても傷つきやすいコバルトブルーの瞳で

人混みの中では孤独を隠せないから 覚えてたの歌を口ずさむ  
頭のいい君は愛想笑いするたび、深く傷ついた  
ほかの人には一瞬と感じる、その瞬間に無限を感じて  
輝きを求めて、自分を磨く  
自分で決めた限界に いつか諦めがふと頭を過る

たまにしか晴れない心  
もう少しで届く魔法の小箱をそっと開けるなら  
今よりきっとうまくやれる

折れそうなハートを隠し持つ 君の歴史の一部になれるのなら  
僕を映す君の瞳に笑顔返しましょう

# SILENT NIGHT

時が経つほどに臆病になるから  
期待はいずれ失望に変わる  
焦る気持ちを抑えて、震える指  
何も手につかず、迷いの中で時は過ぎる

あなたのため息がまた、夜をいっそう深くする  
ときどき虚ろな目であなたは遠くを眺め

始まりがあれば、終わりもある  
それが、あなたの口癖 胸に突き刺さる  
はねたまつ毛を濡らし ふたりは言葉なくす  
再びふたり向き合うまでに、あとどれくらい？

Silent Night 本当の思いを伝えるのならば  
Silent Night 誰もが無傷でなどいられはしない  
Silent Night かけがえのないあなたと秘密を分け合い  
太陽に憧れる月は臆病な心をさらす

やがていつかは新しい出会いが 結ばれたふたりを分つの？  
やがてあなたは僕のすべてを知り そのとき、愛は去るの？

Silent Night 優しすぎる季節が終わらぬよう  
Silent Night 力なく伸ばしたその手をしっかりと掴むから  
Silent Night やがて夜が白く明け、ふたりを冷ます  
あなたの華奢な身体 強く今抱きしめてるから

Silent Night 誰も彼も寝静まる 静寂の時  
Silent Night 降り始めた粉雪が、アスファルトの上  
Silent Night 形、残し 光がふたりを包む

# JOURNEY

明るすぎる — Full Moon — 夜には 身を隠す場所も見つからず  
いつも何かに追われてる気がして 自分のことで精一杯だった

たとえ理想の自分にはほど遠くても 誇りだけは失いたくはない  
Don't stop music アトリエの壁にそっと貼られたハガキの詩うたを口ずさむ

ガラスケースの中から世界を見渡すなら、触れることは許されぬ 孤独

ゴーグル外し、凝視する太陽 光の中、反射するLens Flare  
心を強く持とうとするたび、身体が悲鳴を上げる

生きるたびに厚くなる皮 はぎ取った肌は血にまみれ  
失ったバランスを取り戻す旅に出かける

成熟の証をいま、何に感じる事が出来る 教えて

地面すれすれ、滑空するエンジェル 瞬発力だけで空を飛ぶ  
Music bird is singing once again 情熱が見えない傷を忘れさせる

臆病な自分を脱ぎ捨て 知らなかったことを今、知る  
周りがスローモーションに見える 人生を加速する瞬間

モノクロームの世界の中で 屈折する光、浴び 色を染めて

未来が太陽とともにやってくるから 今、太陽を奪いにゆく  
成熟の証をいま、何に感じる事が出来る 教えて

# JUMP

バックミラーに映る不確かな過去に目をやり  
空はやがて明るく白み始め  
うまく眠れるだろうか 灼熱の大地が水分を奪う  
砂漠の真ん中で喉が音を鳴らす  
水面に顔を出すヒントを探す 書きなぐられた夢が心をえぐる

ただ君がいたから 優しくも強くもなれる  
臆病な自分に目隠しして  
より高く飛ぶため、腕も脚も鍛えたさ  
全身を屈めて、Energyを貯める  
あとほんの少しの勇気を手に、風を読みながら  
運を引き寄せるタイミングを測る

星明かりを頼りに方角を確かめる  
雨に濡れたアスファルトは街灯に照らされ輝く  
君との約束の日はもうとっくに過ぎたけれど  
何かが掴めそうな、そんな気がするのさ

自由を求めるたび、自分で作り上げた新しいルールに縛られてしまう  
たいていの場合、それが真実かそうじゃないかなんて  
それが好きか嫌いか、それだけのこと  
心を突き動かすだけの魅力があるならば 失うものなど、何もないだろう  
愛するたびにまた増える悲しみと消えない喜びを心に刻み

すでに部屋は40度 汗が床にへばりつく  
落ちまくる無骨なPCをひっぱたいて  
魂を揺さぶる 闇の中、刻むリズム  
人はいつだって孤独だけど  
新たなフィールドに飛び立つのさ、君を乗せて まだもう少しゆけるかい

Saturday Night, ガス・ステーション待ち合わせた場所  
それは映画、未公開シーンに似ていた気がする  
テレーズの中にあるジレンマのいくつか  
水性マーカーで君に口紅を描く  
夜の精が僕の肩にそっと降りてきて、ロマンティックな言葉を吐く  
Bring your up! Oh, soulful night. Ah, wonderful world.  
Jump

# PRAYING

どれだけ強く願えば思いは叶いますか  
世界でたった一人、大切なあなたのために  
期待があなたを押しつぶすならば  
あなたを守れる、希望の光になりたい

なぜそんなにも思い出はきらきらと光るのか  
アスファルトの山二つ越えれば、あなたの家

白いキャンバスではなんだか気持ちが落ち着かないから  
黄色い砂、手に取り とりあえず汚してみた  
いつかは壊れてしまう はかない夢ならば  
傷を抱えたまま あなたなしでは私でいられない

すべてがこぼれ落ちるとき 何一つ手につかない  
ただ時間だけが急ぎ足で過ぎてゆく

いつも気丈に振る舞うあなたが涙を見せた 5月、木漏れ日の中

本当のあなたを知るには人生は短すぎる  
あなたを覚えない 優しい嘘も愛おしい  
どれだけ強く願えば思いは叶いますか  
背中合わせ、ふたりは瞳を閉じる

# ALL THUMBS

愛されることに不器用な僕たちは  
時々本当に大切な人たちを、邪険に遠ざけてしまうけれど  
君の前では上滑りする言葉  
何度も言いかけてやめた 本当のことは空に託して

夢の続きを生きるなら、怖いものなどない  
ありのままのふたりではいられない そっと君の唇を咬む

ただの美しいストーリーなど、いつか飽きられ朽ち果てる  
不純な肉体がとろけ出る 赤い涙流す  
言葉をナイフのように使う君は 時々あやまって自分を傷つけてしまうけれど  
机の上、錠剤を砕く 日常 時間をかけて取り戻す

目に見えない差別が君を囲み、孤独にする  
決して色あせない歌の翼を探して、何度もチャンネルをひねる  
白髪が増え、大人になる 大事なことを後回しにし  
気づけない人たちは他人の批判に忙しい

抜け殻の観衆にはなりたくない その自分をただ強く信じてやりたいただけさ  
今なら君の愛にこたえられる ただ心から愛してる

台無しにされた週末を取り返そうと、ふたりは  
君は少し寄った目で 気にしてたほくろも好き

# WITH

それぞれのドラマは心に隠したまま  
通りすがりの人の目、気にしながらキスをする  
孤独なふたりは闇の中、眠る  
遥か遠くから、電車の音

いつでも会えるはずの僕らが ひと月に一度しか会えないその理由はなぜ？  
屋根の上、散歩して ハレー彗星の夜  
充血した目で見上げると月は優しく頷く

間延びした日常が あなたを遠くする  
水面に反射する僕らの姿が歪む  
幼すぎるふたりは悲しみの中で なぜ深いため息をつく

何度も同じ過ちを繰り返し 不条理な世界 悩み上手なふたり  
橋の下、ハイ・ウェイを車が行き交う  
瓶詰めにされた思い 水源求め彷徨う

愛することに迷い 汚れた地図を広げて 手探りの明日 あなたとともに  
心にできたかさぶたをはがす ふたり  
あなたの悲しみのすべて 食い尽くしてしまいたい

暗転する舞台の陰 誰も知らない物語が綴られる 悲しみを乗り越えて  
どこまでも透き通った湖を泳ぐ あなたは瞳に花を咲かせた 覚えたてのLOVE  
愛することに迷い 汚れた地図、広げて 手探りの明日 あなたとふたりして



# YOUR SON.

少しずつ近づく最後の瞬間に、向かい続くレース  
あなたは知っていた  
ありふれた言葉が新鮮に聞こえる  
あなたが言ったことは、決して忘れはしない

できないことをひとつ噛み締めて、すべきことがわかる

安らかに目をつむると、愛すべき歌が聴こえますか  
祈るように思いは募る 握り返す手は力なく絶える

誰にも癒すことのできぬ孤独を抱え  
あなたの愛したバラを棺一面に満たし  
たどり着く果てに、何が待っているの  
窮屈な世界が苛立をつのらす

お互い向き合い、目を見て話したことなど ただの一度もない

手がかり求め あなたの愛したレコード、針を落とす  
部屋を包む哀愁のメロディ どこであなたはいま聴いていますか

闇の中、閃く 一瞬のまたたき  
時にそれが邪魔だった 際限のない深い愛

# SOUL DRIVE CINDY

途切れがちな息を白く吐き 暗い校舎、響き渡るサウンド  
愛すべきシンディ 心のミュージック  
弾き続けるリズムカル・ピアノ 生きることは色褪せない

あらすじの見たドラマのように人生を生きる人をかき分けて  
恐れを知って、足が震える 自分にだけは負けたくはない  
妥協を重ねる毎日が自信をもろく崩れてく —— 雑踏にかき消された君の言葉

心を映すミラー越しに 急カーブ、水しぶきを上げ  
隠された暗号を照らし出すブラックライト 闇の中、乱反射する

他人事の人みな、自分の人生を生きることもできず  
ありもしない輪郭を追い求めた 答えは自ら生み出すもの

続けざまに吹かす煙草 タイヤのように軋む心  
耳を澄ます、心穏やかに 目を開けると見えないものがある  
サングラスの奥深く、失意の眼差し シンディは口元で穏やかに微笑む

ずっと先だと思ってた未来は、そう遠くの話じゃないなんて 口には出さないけど  
今、この一瞬を無駄にすることなどできないだろう

立ち止まるたび、高くなるように思える 綱渡り、壁の上を平均台  
まだ見ぬ世界を思い描き、心は高鳴る  
癒えぬ魂を抱え、冒険の明日が始まる

# BEAUTIFUL LAND

語り尽くすことなどできず、物語は続くの？  
やがて夢は醒め、日常へと戻ってしまうもの  
孤独な瞳をした臆病な笑顔のその人は  
しだいに疲弊してゆく心 泣かないで

ここで生み出すものすべて 愛せなくなってしまった  
今すぐ探しに行く 何を失くし、忘れたの？

誰かに語りかけるように本を読んでもくれたね  
眠れぬ深い夜も 揺れる心、そのままに  
笑顔で手を振るあなた うっすらと涙を浮かべ  
いつかまた会う日まで、覚えてるから…

All Songs Written by Hidenori Matsuoka  
as Rootage

Special Thanks to...

Shoichi Suzuki

Arp

Chris Halford

Naoh Arimura

Official Web Site  
[www.theRootage.com](http://www.theRootage.com)

Email  
[info@therootage.com](mailto:info@therootage.com)

© 2006-2009 Hidenori Matsuoka

このCDは、権利者の許諾なく貸貸業に使用すること、また、個人的な範囲を超える使用目的で複製すること、ネットワーク等を通じてこのCDに収録された音を送信できる状態にすることは、著作権法で禁じられています。

© Hidenori Matsuoka STEREO MADE IN JAPAN

COMPACT  
disc  
DIGITAL AUDIO

# GROWIN' UP

Rootage